

事後評価審議資料
林道事業（森林整備課）

○ ふるさと林道緊急整備事業【和良・明宝線】

- ・平成26年度事後評価箇所表 . . . p 1～3
- ・説明資料（パワーポイント） . . . p 5～11

平成26年度事後評価箇所表

担当課〔森林整備課〕

番号	2	事業名 (路線名等)	ふるさと林道緊急整備事業 (和良・明宝線)
実施箇所	起点：郡上市和良町鹿倉 終点：郡上市明宝畑佐	全体事業費	(当初10,500百万円) 11,413百万円
採択年度	平成8年度	完了年度	平成24年度
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの		
事業目的	<p>本林道は郡上市和良町鹿倉から明宝畑佐へ至る幹線道路を緑資源幹線林道、市道とともに形成する林道である。さらに県道のバイパスと一体となって整備をするもので地域の道路ネットワークの一端を担うための林道であり、当地域の振興・定住環境の改善、都市との交流促進に貢献することが期待されている。</p>		
事業概要	<p>幅員：8.0m(6.0m) 延長：4,583m 主要構造物：トンネル 2,722m(名称：相谷トンネル) 橋梁 2基(五里傍橋37m 畑佐大橋175m)</p>		
概要図			

評価結果	
<p>①住民参加・協働による効果</p>	<p>○事業実施前 ・地区座談会等の開催等で意見を聴取した。</p> <p>○事業中 ・工事期間中に度々、地域住民の現場見学会が開催された。</p> <p>○事業完成後 ・和良観光協会と明宝観光協会が、林道の愛称を募集し「こもれびロード」と命名。 ・地域間交流の新たな取り組みとして、和良と明宝が地域合同で行う「和良明宝親睦ゲートボール大会」を平成26年度より開催。 ・国保和良診療所の小川診療所への巡回が容易となった。</p>
<p>②事業効果</p>	<p>○走行距離・時間の短縮 郡上市和良町の国道256号から明宝の国道472号「せせらぎ街道」までの八幡町市街地を経由するルートに比べ、本林道を経由するルートでは距離で17.5km、時間で25分と短縮された。</p> <p>○森林整備の推進 ・利用区域419haのうち274haが人工林で、間伐対象林分が大半を占めている。これまで204.8haの間伐実績があり、人工林の多くで森林整備が進められている。森林経営計画は現在77haが実施中であり、新たに81haが計画されている。</p> <p>○事業効果を分析した投資的効果率は1.2となった。</p>
<p>③環境面への配慮</p>	<p>○基準値を超えるヒ素を含むトンネル残土と湧水への対応 相谷トンネルの掘削残土と湧水を調査したところ、それぞれ環境基準を超えるヒ素を含むことが判明した。そこで検討委員会の意見に基づいて対策を行った。</p> <p>○自然公園地内の緑化工への配慮・間伐材の利用推進 自然公園内の工事にあたって、緑化基盤材に種子を入れず周辺植生の侵入が容易になるよう配慮。木柵工や丸太筋工、木製アスカーブに間伐材を利用。</p>
<p>④事業を巡る社会情勢の変化</p>	<p>○道路ネットワークに関する変化 ・本林道と周辺道路を一体的に整備 →県道金山明宝線のバイパス工事及び「めいほうトンネル」の工事着手、市道鹿倉畑佐線の改良完了 ・広域道路ネットワークの整備 →濃飛横断自動車道「ささゆりトンネル」の供用開始及び2期工事の推進、広域農道郡上南部の整備推進 ・本林道が緊急輸送道路ネットワークの1路線として指定された。 以上、今後は「めいほうトンネル」開通による小川方面からの交通流入や下呂、郡上間の広域道路ネットワーク強化により交通量が增大するうえ、災害時のライフラインとしての重要性も高まっている。</p> <p>○森林林業に関する変化 ・平成21年に郡上市美並に中間土場「サテライト美並」が開設。 ・平成23年に中津川市加子母の大型合板工場「森の合板工場」が本格稼働を開始。 ・平成27年に郡上市白鳥町にて「長良川木材事業協同組合」の大型製材工場が稼働予定。 以上のとおり郡上管内の木材需要が増大し、本路線の木材輸送経路としての必要性も増している。</p>

⑤利用者・地域住民等への効果

アンケート調査を行った結果、以下のとおりとなった。

- ・ 94%の人が林道を通行したことがあると回答
- ・ 生活道路として使用する人が58%、観光道路として使用する人が31%
- ・ 本林道事業の満足度に関して、約3分の2の人が「満足」「やや満足」と評価。
- ・ 満足とされた理由は「目的地までの時間が短縮された」が6割を占めており、次が「走りやすくなった」の約2割

以上のことから、多くの人が本林道を生活道路として活用し、また走行時間、距離の短縮に関して満足している結果となった。

⑥対応方針

○今後の事業評価の必要性

1. 本林道と関連する道路が一体となって道路整備を行ったことで、地域の新たな道路ネットワークが形成され、生活道路や観光ルートとして定着している。
2. 今後の、下呂方面と郡上地域の道路ネットワーク強化に本路線の果たす役割は大きく、これに伴い本林道の交通量増加も見込まれる。
3. 周辺森林の整備が進められており、林道本来の役割も果たしている。

以上のことから、今の段階では必要なし。

○改善措置の必要性

今の段階では必要なし。

○新規事業へ適用すべき留意点

道路ネットワークを構成する林道については、今後も引き続き、関連する道路と計画調整を行い無駄のない事業計画とすると共に、地域住民の意見を踏まえ地域に必要とされる林道を計画していく。

事後評価
ふるさとと林道緊急整備事業
林道 和良・明宝線

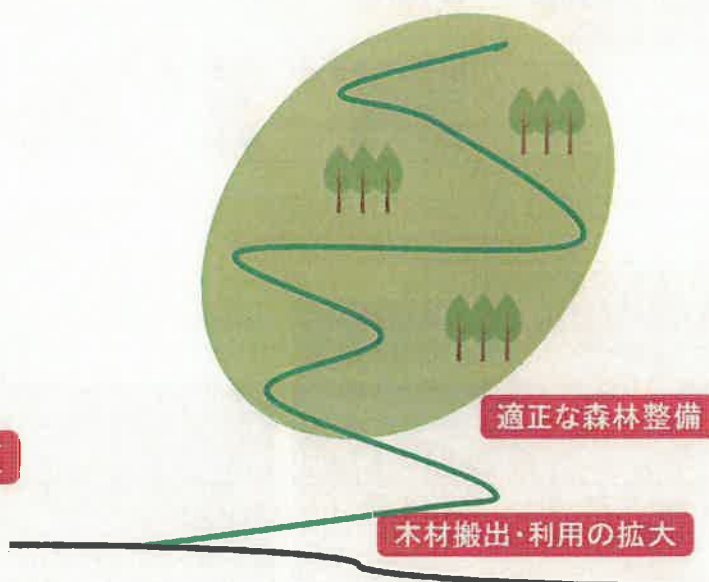
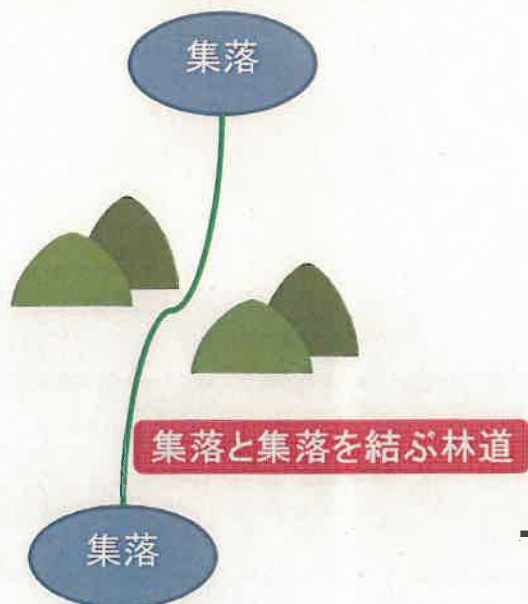
林政部森林整備課

「ふるさとと林道緊急整備事業」
とは

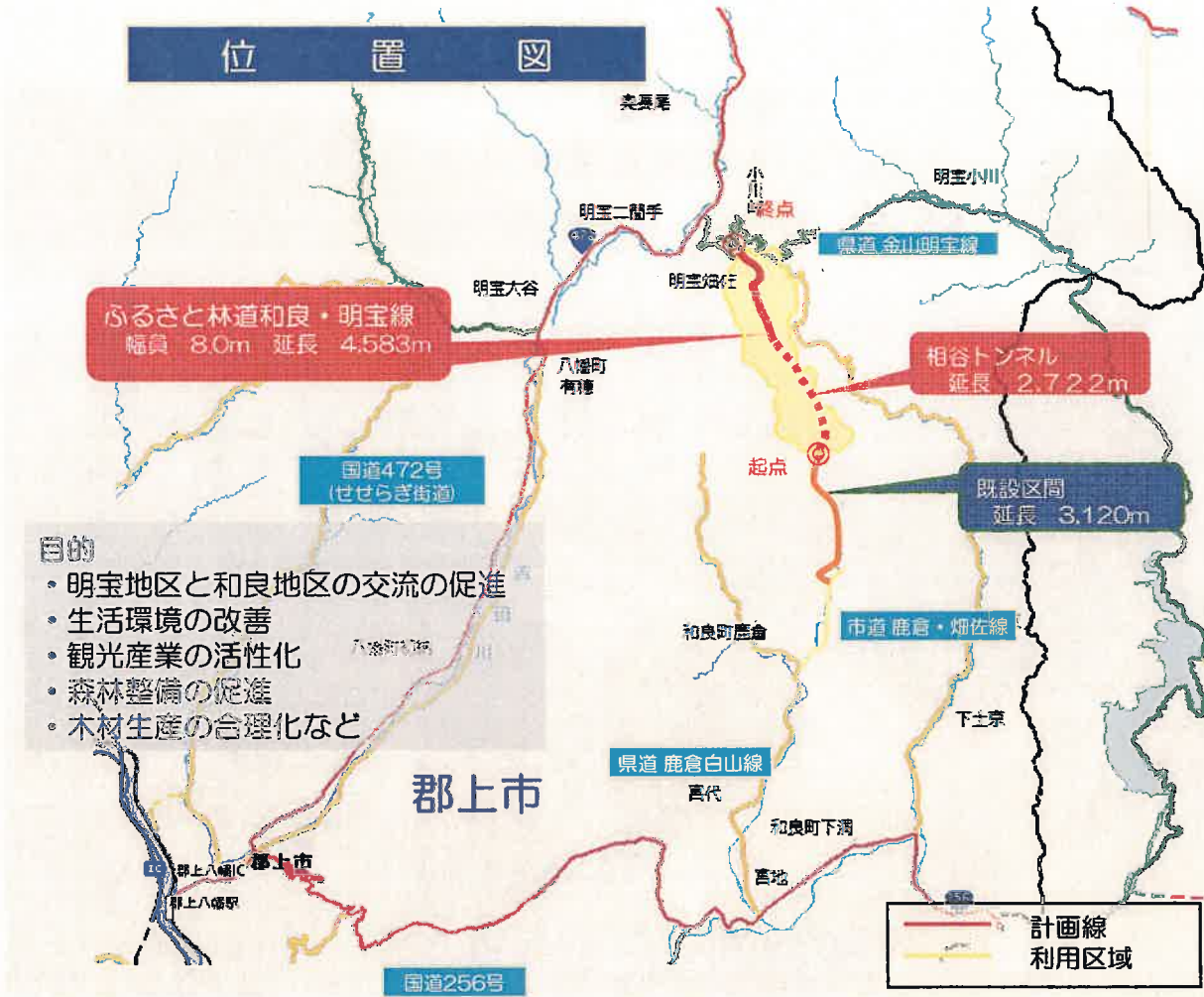
山村地域の振興と定住条件の改善に資することを主目的として、集落と集落とを結ぶ集落間林道等を整備する。

一般的な林道

森林整備の促進や林業経営の合理化、木材搬出・利用の拡大



位置図



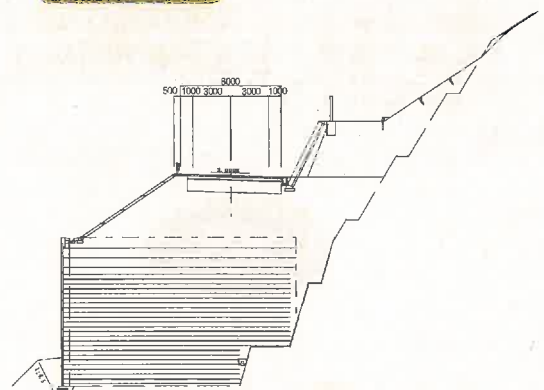
事業概要

林道概要

延長	4,583m
幅員	8.0m
事業期間	平成8年度～平成24年度
事業費	11,413百万円
利用区域面積	419ha
主要構造物	

相谷トンネル	延長	2,722m
五里傍橋	橋長	37m
畑佐大橋	橋長	175m

標準図



主要構造物状況



相谷トンネル



五里傍橋



畑佐大橋

住民の参加・協働による効果

事業中の住民参加



工事期間中に地元住民を対象とした見学会を実施

事業完成後の住民参加

和良観光協会と明宝観光協会が共同で愛称を募集し、「こもれびロード」と命名



地域間の交流を深めるための新たな取り組みとして「和良明宝親睦ゲートボール大会」を開催



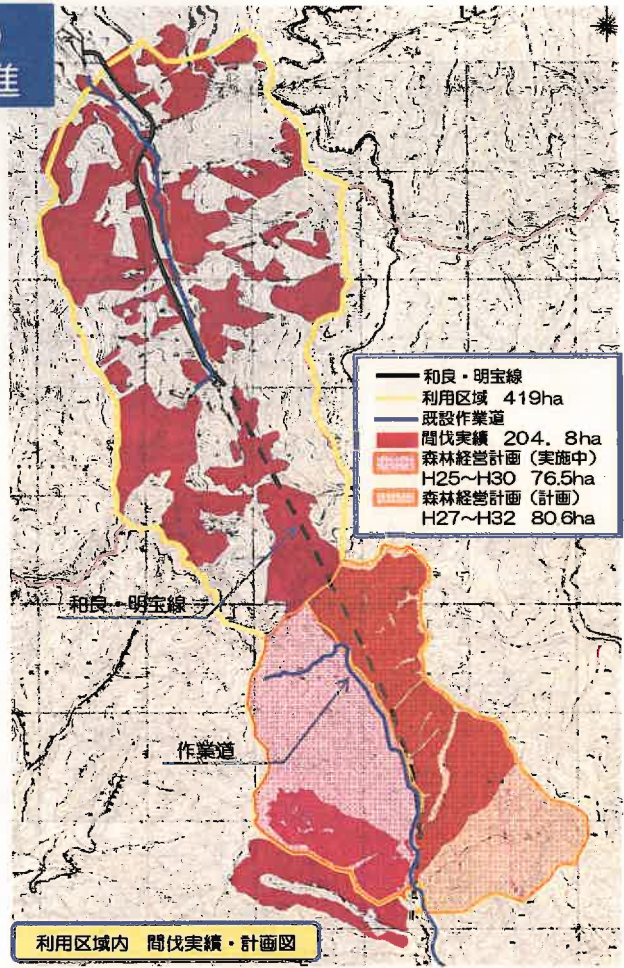
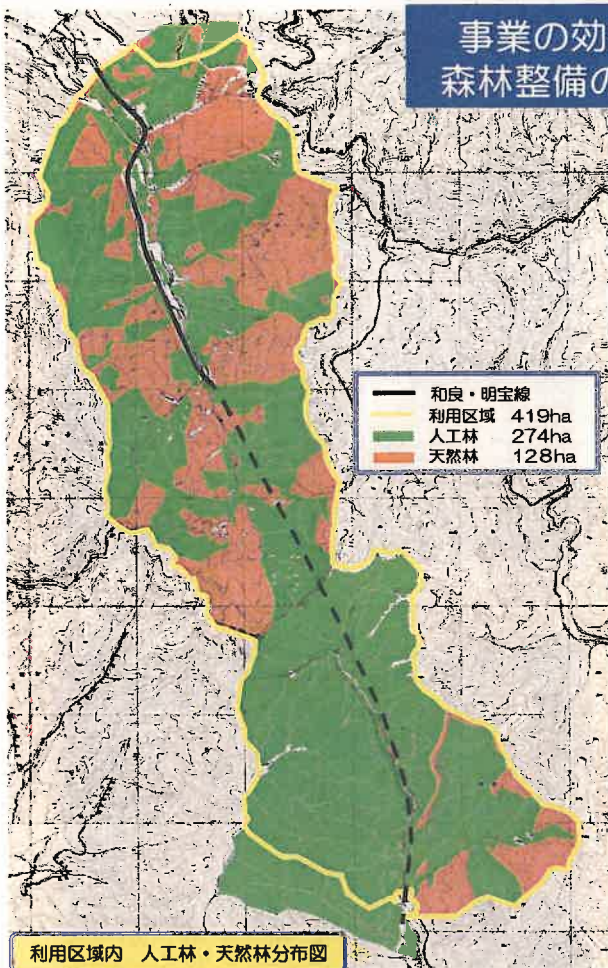
国保和良診療所の小川診療所巡回が容易になった



事業の効果① 走行距離・時間の短縮



事業の効果② 森林整備の推進



費用対効果分析

事業の効果

- 一般交通便益
- 森林整備経費縮減等便益
- その他の便益

効果全体の94%
効果全体の 5%
効果全体の 1%

投資的效果率

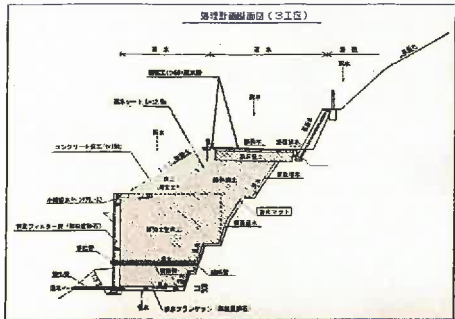
$$\frac{\text{効果額}}{\text{事業費}} = 1.2$$

環境面への配慮

基準値を超えるヒ素を含むトンネル残土と湧水への対応

トンネル工事の残土及び湧水から環境基準値を超えるヒ素が検出され、岐阜県建設発生土処理対策調査委員会の意見に基づき対策を行い、その後継続的に監視を行った。

トンネル残土→林道路体内へ封じ込め



トンネル湧水→接触するリスクが低い箇所で放流し、継続的な監視



自然公園地内の緑化工への配慮

無種子基盤材による植生工により在来植生の侵入を促す



間伐材の利用推進

木柵工、丸太筋工、木製アスカーブに間伐材を利用



事業をめぐる社会情勢等の変化

道路ネットワークに関する変化

- ・市道鹿倉畑佐線等の本林道関連道路が整備完了
- ・今後、県道金山明宝線「めいほうトンネル」のほか、広域道路ネットワークが整備予定
- ・緊急輸送道路に和良・明宝線が指定

明宝小川方面からの交通流入
下呂と郡上の広域道路ネットワーク強化
ライフラインとしての重要性

森林林業に関する変化

- ・郡上市美並町に「サテライト美並」が開設
- ・中津川市に「森の合板工場」が稼働
- ・瑞穂市に「岐阜バイオマスパワー」が稼働
- ・今後、郡上市白鳥町に「長良川木材事業協同組合」による製材工場が稼働予定

県内の木材需要の増加に伴い、郡上管内の素材生産量の増加
当該林道の木材輸送経路としての必要性の増大



利用者・地域住民等への効果

アンケート調査結果(1)

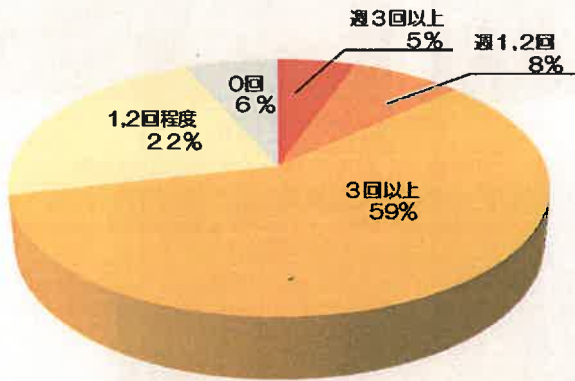
アンケート調査概要

	明宝	和良町	道の駅「和良」	計
配布枚数	200	200	100	500
回収票数	94	165	47	306
回収率	47%	83%	47%	61%

調査方法

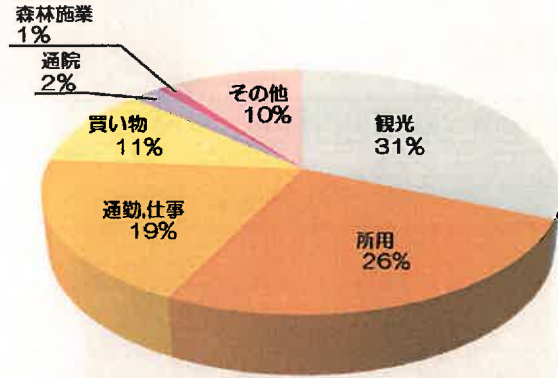
- ・地域住民へは郡上市の振興事務所がアンケートを配布し、後日これを回収
- ・地域外の利用者は道の駅「和良」にアンケートを設置し、後日これを回収

林道の利用頻度



- ・94%の人が林道を利用したことがある
- ・頻繁に利用する人は、全体の13%
- ・81%の人は、これまでに数回通行したことがあると回答

林道の利用目的

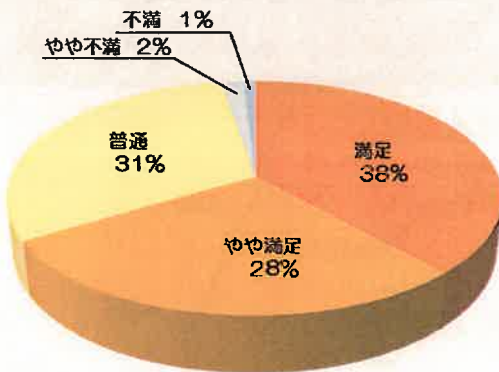


- ・観光が31%と最も多いが、生活に関連する所用、通勤、買い物を合わせると58%となり、地域の生活道路としての性格が大きい

利用者・地域住民等への効果

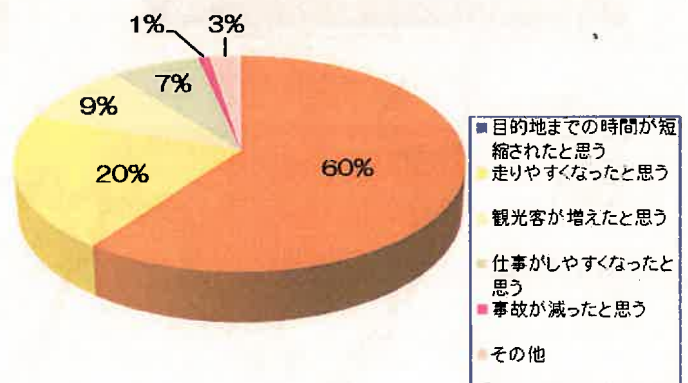
アンケート調査結果(2)

本林道が整備されたことに対する満足度



- ・「満足」と「やや満足」を合わせると、66%と約3分2の人が本林道を評価している

「満足」とされた理由



- ・「目的地までの時間が短縮された」が6割を占める

今後の事後評価の必要性

- ① 本林道の周辺道路が一体となって道路整備を行ったことで、地域の新たな道路ネットワークが形成され、生活道路や観光ルートとして定着している。
- ② 今後の、下呂方面と郡上地域の道路ネットワーク強化に本路線の果たす役割は大きく、これに伴い本林道の交通量増加も見込まれる。
- ③ 周辺森林の整備が進められており、林道本来の役割も果たしている。



今の段階では必要なし

改善措置の必要性

今の段階では必要なし

新規事業へ適用すべき留意点

道路ネットワークを構成する林道については、今後も引き続き、関連する道路と計画調整を行い無駄のない事業計画とすると共に、地域住民の意見を踏まえ地域に必要とされる林道を計画していく。

